



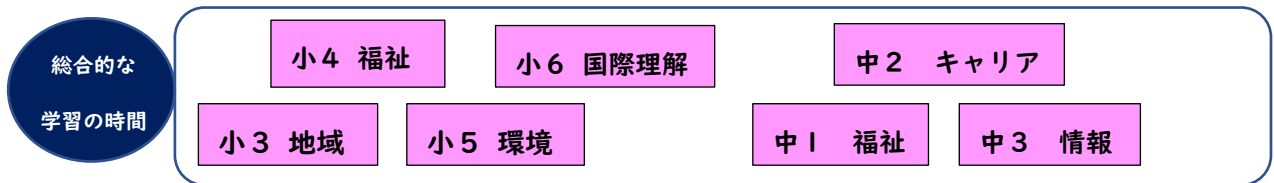
あそ野学園義務教育学校が構想する 新教科「きらりあそ野科」について

育てたいのは、**コミュニケーション能力**
話す力・聞く力・質問する力です。

Q. 生活科や総合的な学習の時間とどこが違うのか。

A. 基本的には、生活科と総合的な学習の時間をベースとした学習です。

生活科と総合的な学習の時間をつないで、義務教育9年間を通して、系統的・段階的に学習していきます。



きらりあそ野科



Q. なぜ、新教科なのか。

A. 上の図のように、総合的な学習の時間では、学年によってテーマを決め、探究的な学習を行っています。

小学1年生から中学3年生までが、一つの学校で学ぶあそ野学園義務教育学校では、9年間を見通した系統的・段階的な学習内容とするために、4つの分野を柱として、「ふるさと」「キャリア」「防災・安全」「環境・国際理解」を打ち出し、児童・生徒の発達の段階に応じた学習内容となっています。

「生活科」や「総合的な学習の時間」の目標や育てたい資質・能力を満たしながらも、9年間を見通した系統性のある学習内容を設定することにより、あそ野学園ならではのふるさと学習材を生かした新教科として設定しました。

Q. 他の小中学校ではできないのか。

A. 「きらりあそ野科」は、「義務教育学校の教育の特例（義務教育学校では、小中一貫教育のための独自教科を追加できる）」を生かして設置された新教科です。元田沼西地区の小中学校の先生方が構想し、具体的な学習内容や指導計画を作成しました。あそ野学園義務教育学校開校に際し、小中一貫教育の軸となるあそ野学園義務教育学校ならではの学習として、研究を重ねて作り上げた教科です。

他の小中学校において、学習している生活科や総合的な学習の時間と基本的には違いはありませんが、9年間を見通して系統性のある学習内容となっているところが特徴です。「きらりあそ野科」は、義務教育学校のメリットを生かした学習内容と言えます。

Q. 具体的には、どんな内容を学習するのか。

A. 「ふるさと」では、紙すき体験や藍染め体験・地域の伝統文化である下彦間太鼓や獅子舞などの地域の様々な伝統文化を9年間を見通したカリキュラムで系統的・段階的に学習していきます。

「キャリア」では、地域の公共施設・工業団地・福祉施設等を見学し、地域の職業人からお話を聞くなどして自分の将来設計を段階的に学習していきます。

「防災・安全」では、防災を中心に地域を調べ、栃木県の防災館を見学し、災害について学ぶとともに、発展期の9年生では、避難所の開設や炊き出し体験を行います。

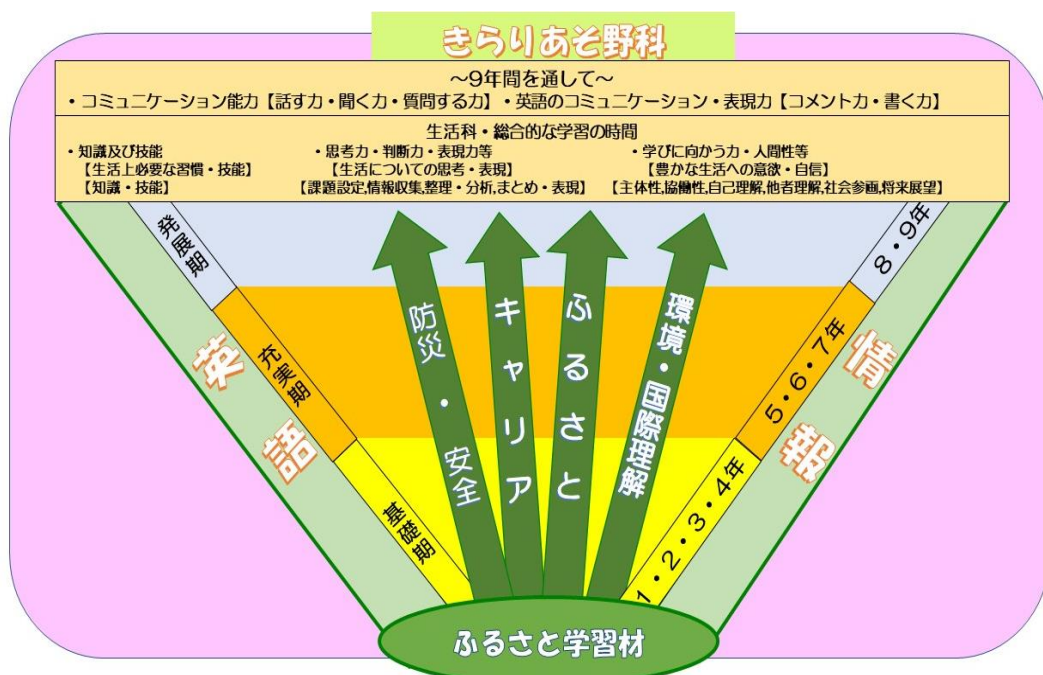
「環境・国際理解」においては、学校行事の宿泊学習と関連させ、佐野市と県外の他市町とを、自然環境や国際化について比較しながら自分たちの地域を更に良くしていくための取組をしていきます。

Q. そのほかの特徴はあるか。

A. 各分野の学習をする際には、「英語」や「情報」の学習を生かしながら、育てたい資質・能力を身に付けさせていきます。例えば、「飛駒和紙」について、調べたことをまとめた後には、日本語で発表するとともに、飛駒和紙の作り方について簡単に英語で説明する内容も計画されるなど、単元ごとに英語による表現活動を取り入れています。

また、「情報」については、コンピュータの基本操作やICT機器を活用したプレゼンテーション技能、情報モラル等を段階的・系統的に学ぶようになっています。

【きらりあそ野科の構想イメージ図】



9年間を見通した 学習指導の工夫

- ① 学びの合言葉の活用
- ② 思考スキルの活用
- ③ 家庭学習のすすめの活用
 - < 1・2年生用 >
 - < 3・4年生用 >
 - < 5・6年生用 >
 - < 7・8・9年生用 >
- ④ あそ野スタンダードの活用 (学習のきまり)
 - < 1・2年生用 >
 - < 3・4年生用 >
 - < 5・6年生用 >
 - < 7・8・9年生用 >

あそ野学園 学びの合言葉

【聴く】「3R」 「Reaction & Repeat & Request」

あ : 相手が話しやすいように聴こう「聴いて〇〇する」

- ・リアクション (うなずき・相づちなど)
- ・リピート (相手が言ったことを繰り返す)
- ・リクエスト (もう一度言ってほしい、もう少し詳しく教えて)

【伝える】「Show&Tell」 (見せながら話す)

そ : ^{わけ}そう考えた理由を付けて (添えて) 分かりやすく伝えよう

【創造する】「Challenge & Create」 (挑戦し、創り上げる)

の : ノート (文字) を見せ合いながら、考えを深めよう

あそ野思考スキル (前期課程)

関連づける(つなげる) 考える道具「イメージマップ」 例) 米がどのようにして食べられていられるかを考えて、作文で伝えることを決めましょう。	分類する(なかまわけする) 考える道具「X, Y, Wチャート」 例) ゴミを種類ごとに分けると、どのような名前前で分別できるだろうか。
ことば 特色は 特徴は 別の言い方をすると他にも さらに つながり	ことば たとえば～なので〇〇～という点で同じ〇〇のなかま 分類 特徴 種類 用途(使い方) 形 大きさ 色 なかま わける まとめる
伝え方 Aの項目では…のように広がっています。 BとCは、…が共通しています。	伝え方 ●●と〇〇と△△は～という点で、同じなかまです。このグループは、〇〇のなかまです。
比較する(くらべる) 考える道具「ベン図」 例) 日本の家とアメリカの家の作りを比べてみよう。	推論する(よそうする) 考える道具「キヤンディチャート」 例) 豆電球が点いた実験の結果から、じしゃくが何を引きつけるか予想しよう。
ことば 一方 他方 ～に対して ～のほうが 類似(同じところ) 対比(ちがうところ) くらべる 特徴 視点	ことば ～と予想される。おそろくたぶん～だろう もし～なら、なぜなら、～だから 仮定 根拠 予想 見通し
伝え方 Aは～です。それに対してBは…です。 AもBも××ですが、Aは～で、Bは…です。	伝え方 もし～ならば、…と思う。そのわけは～だからです。 もし～ならば、…と考えられます。なぜなら～だからです。

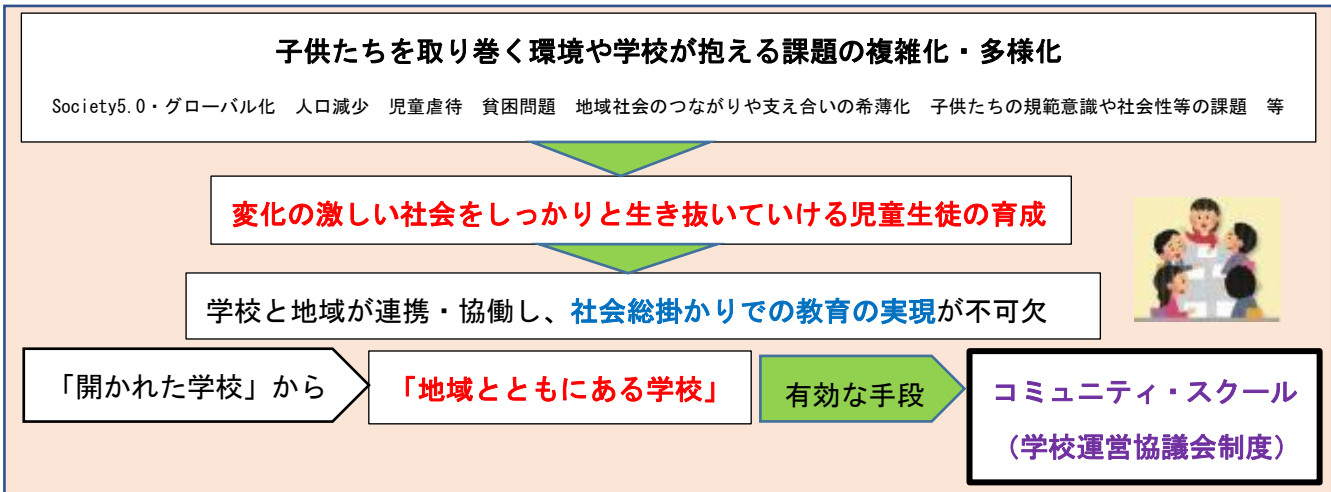
あそ野思考スキル (後期課程)

構造化する(理由づける) 考える道具「くらげチャート・なぜなにシート」 例) 筆者の主張や考えの理由や根拠を本文中から みつけよう。(国語)	多面的にみる 考える道具「バタフライチャート」 例) インスタント食品は、わたしたちの生活に必要だろうか。
ことば なぜなら どうしてかという このようことから つまり～ 例えば 主張 理由 関係 筋道	ことば ～について賛成(反対) 理由は～ 多角的, 多面的, 意見, 主張, 根拠, 理由づけ 賛成(反対)の立場から見ると～
伝え方 ～の事実から〇〇〇と分かるので、…と主張します。 ～ということから…と考えられます。なぜなら〇〇〇からです。	伝え方 ～について、賛成(反対)です。それは、…だからです。
分析する 考える道具「(おさかな)ボーン図」 例) 図書やのぶれ、紛失、延滞などの貸出図書の問題はなぜ生じるのか。	評価する 考える道具「PMIシート」 例) 習い事でサッカーを始めるに当たって、その良さや価値を具体的に語れるか。
ことば ～の原因は おもな要因は 具体的には 一つ目は 分析 分解 部分・全体 問題 要素 要因 原因 成分 特徴	ことば 良い点 良かった点 利点 長所 簡便 改善点 困難 興味深い点 おもしろい点 比較的 評価 おおむね ～の視点では 長所(短所)は～ 考えをつなげる 傾向
伝え方 ～の原因としては、…が考えられます。 具体的には(例えば)××	伝え方 ～です。なぜかという…このような理由で、よかったです(改善の必要がある)と思います。この活動を評価すると比較的～です。

あそ野学園義務教育学校はコミュニティ・スクールへ

あそ野学園義務教育学校から本市のコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）が始まります。

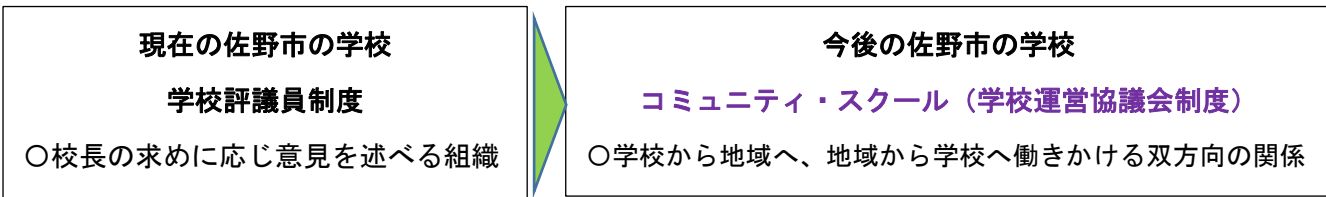
1 コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）とは



2 佐野市へのコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）導入計画

年度	令和2年度	令和5年度	令和6年度
内容	あそ野学園義務教育学校へ導入	葛生義務教育学校へ導入	市内全校に順次導入検討

3 現在の佐野市の学校、今後の佐野市の学校



4 コミュニティ・スクール推進のために必要なこと

「**学校と地域が一体となって子どもたちの成長に関わるような体制づくり**」を学校、地域で構築する。

佐野市コミュニティ・スクール(CS)イメージ

佐野市コミュニティ・スクール(CS)では、学校と地域が共通の目標を持ち、一体となって地域の子どもたちを育みます。

コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会を設置している学校を指します。

